夢のつばさプロジェクト

2025冬の交流会　学生報告書

【日程】2025年12月21日(日)

【開催地】鉄道博物館

さくら大宮ビル（さいたま市）

【参加者】子ども：８名(中学生1名、高校生3名、大学生2名、社会人2名)

学生スタッフ・OB/OG（社会人を含む）：5名　　社会人スタッフ/協力者：6名

◆2025冬の交流会について

今回も多くの皆様のご支援とご協力を賜り、無事に冬の交流会を開催することができました。心より感謝申し上げます。

本交流会では、午前中は鉄道博物館の見学を行い、午後はお茶の水学術事業会副会長青島朋子様より提供いただいた、大宮駅を望むことのできるビルの一室で、学生企画レクリエーションを実施しました。学習と交流の両面において、非常に充実した一日となりました。以下、当日の様子をご報告いたします。

1．鉄道博物館見学

鉄道博物館では、参加者を3グループに分けて見学を行いました。各グループが興味のある展示から自由に回る形式としました。館内は非常に広く、見どころも多いため、限られた時間の中でも最後まで充実した見学となりました。展示の中では、通常は非常時以外使用できない踏切の非常停止ボタンを実際に押す体験や、記念切符を使用して専用ゲートを通過する体験、架線や車輪の点検体験など、日常ではできない貴重な体験ができました。

子どもたちだけでなく、学生スタッフやOB・OGスタッフも含め、楽しみながら学ぶ時間となりました。また、昭和時代に活躍したさまざまな用途の再現電車の内部に入り、実際に座席に座ったり、車内の構造を間近で観察したりしました。子どもたちは新幹線を利用して東京に来る機会が多いため、現在の新幹線と過去の車両を比較し、座席の向きや角度、クッション性、サービスの違いなどに特に興味を示していました。

2．学生企画レクリエーション

見学後は、さくら大宮ビルに移動し、学生企画によるレクリエーションを行いました。

（1）アイスブレイク：クリスマス絵しりとり

2チームに分かれ、クリスマスに関連するお題からスタートする「絵しりとり」を行いました。声に出してよいヒントは3回までとし、制限時間内に多く正解できたチームが勝利というルールでした。応援の声掛けはありなので「頑張れ！」や、「あれだよ！あれ！」といった声かけが飛び交い、大変盛り上がりました。前後の文字がつながらなかった場合はマイナス2ポイントとなるため、正確さを重視するチームと、多少間違っても回転率を重視するチームに分かれ、それぞれ戦略を練っていました。自分の描いた絵を説明する際には解釈がわかれるイラストもあり、大変盛り上がりました。

（2）企画①：チーム対抗脳内一致ゲーム

次に行ったのは、3人1組のチームで行う「脳内一致ゲーム」です。出題者のお題に対し、他の2人が書くであろう文字を予測して自分の1文字を書き、チーム全員で同時に開示します。実際にあった例でいうと、「赤くて甘い果物」というお題に対し、真ん中の文字担当が「いちご」を想定していても、両脇の2人が「りんご」を思い浮かべて、「り」「ち」「ご」となり、不一致となります。正解は1つに限定されておらず、3人の文字が1つの言葉として成立すれば成功となるため、互いの考え方や発想の違いを楽しみながら協力するゲームとなりました。

3．企画② クリスマスカード作り、プレゼント交換

今回は企画②として、クリスマスカード作りを行いました。カードは、『誰かに送りたい言葉』を書くことをテーマとし、「人生で大切にしていること」「元気になれる言葉」「幸せを感じられる言葉」などと自由に表現しました。加えて、クリスマスらしい装飾を施し、「もらった人が笑顔になる」工夫をそれぞれが考えながら制作しました。本企画の目的は、創作活

動を通じた自己表現の機会をつくること、そしてイベント終了後も振り返ることのできる「形として残るもの」を子どもたちに届けることでした。

完成したクリスマスカードは、サンリオ様よりご提供いただいたプレゼントの袋に同封し、参加者全員で輪になって音楽が止まるまで回す方式で交換しました。「あわてんぼうのサンタクロース」を歌いながら行ったプレゼント交換は、会場全体が一体となり、笑顔と温かい雰囲気に包まれました。

毎年いただくサンリオのプレゼントは、子どもたちにとって非常に親しみ深いものとなっています。「何年のクリスマス会では○○のキャラクターをもらった」「今回の冬のクリスマス会には〇年と〇年のプレゼントを持ってきた」と話す子もが多く、このような多くの支援者からの継続的なご支援が、夢のつばさの様々な思い出と深くつながり、子どもたちの心を長く支えていることを強く感じました。

◆冬の交流会を終えて

前回の交流会はオンラインでの秋の交流会であったため、対面で顔を合わせるのは久しぶりでした。高校生まで子ども参加者として関わってきた大学生や社会人が、今回は学生OB・OGスタッフとして企画運営や見守りに携わり、子どもたちを支えてくれたことが非常に心強く感じられました。また、企画中は終始笑顔があふれ、最後の新幹線を待つ時間まで、スタッフと子どもたちの間でさまざまな話が交わされていました。「もっと長くいたい」という声も多く聞かれ、交流の時間がいかに充実していたかを実感しました。

今回滞在した大宮では、博物館で学ぶ機会に加え、鉄道とともに大宮で育ってこられた青島様より、施設のバルコニーにて電車の解説をしていただくなど、鉄道について深く学ぶ貴重な機会を得ることができました。また、青島様にはお部屋を提供いただき、参加者全員が気持ちよく過ごせるよう細やかなお心遣いをいただいて温かく幸せな時間を過ごすことができました。

今回の交流会を通じて、多くの皆様のご支援があってこそ、私たちはこのような活動を継続できているのだと強く実感しました。改めて、ご支援いただいている皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

夢のつばさプロジェクト学生ボランティア代表　お茶の水女子大学2年　吉野歩海